

<今日の説教のポイント マタイによる福音書 28 章 16～20 節>

①気になる言葉、「疑う者もいた」(17)。そこで考えるべきことは？

「復活の主に会い、ひれ伏した。しかし、疑う者(複)もいた」(17)。

11 弟子なのに、復活の主を見たのに信じられない人たちがいたということ？ そうです。しかし、そのことに驚くより、むしろ、その人たちもこの後、主イエスの言葉を聞いて、命をかけて世界中に福音を伝える者となったことにこそ驚くべきでしょう。目で「見た」のに信じられずに疑った彼らを変えたのは、耳で「聞いた」復活の主イエスの言葉だったのです！ その内容こそが問題です。見て行きましょう。

②(18) これからも生きて働き給う主を覚えた！

復活の主はまずこう語りかけられました、「私は天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、…」(18)。弟子たちは、「律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになった」(7:29)イエス様のことを思い出し、「この方はこれからも、私たちがどこにいても、何をするにしても、いつも守り続けたもう、力あるお方だ」、と思ったのではないのでしょうか！ あとは、その方から託されたことに取り組んで生きるだけです！

③ 1)洗礼を受ける、2)主の教えを学び続ける、その時に、3)主の平安が与えられる (いつも主が共におられる、と思える)！

主が弟子たちに命じられたことは、1)すべての民に洗礼を授けること(19)、だけではありません。それと共に、2)主から教えらことを教える(20a)、ことでした。私たちの側から言うと、洗礼を受けること、主の教えをしっかりと学び続けること、この二つが大事なのです。主が命じられたこの両輪が揃う時に、どんな時にも、3)「主が共にいて下さる」、と思えるようになるのです！ 聖日毎に教会の礼拝に集って御言葉に聞き、学び続けることが大事な所以です。

④「すべての民を私の弟子にきなさい」(19)の「民」が大事！

この「民」と訳された元の語は「人の集団」を指す言葉です。神の国を望み見つつ、民族や国家によって分かたれない、全ての違いを超えて主の下に一つとなれる、新しい群れの建設が託されたのです。なんと壮大で魅力的な営みでしょうか。主と出会った者に与えられた、新しい人生の大きな目的の一つ、それが教会の建設です！